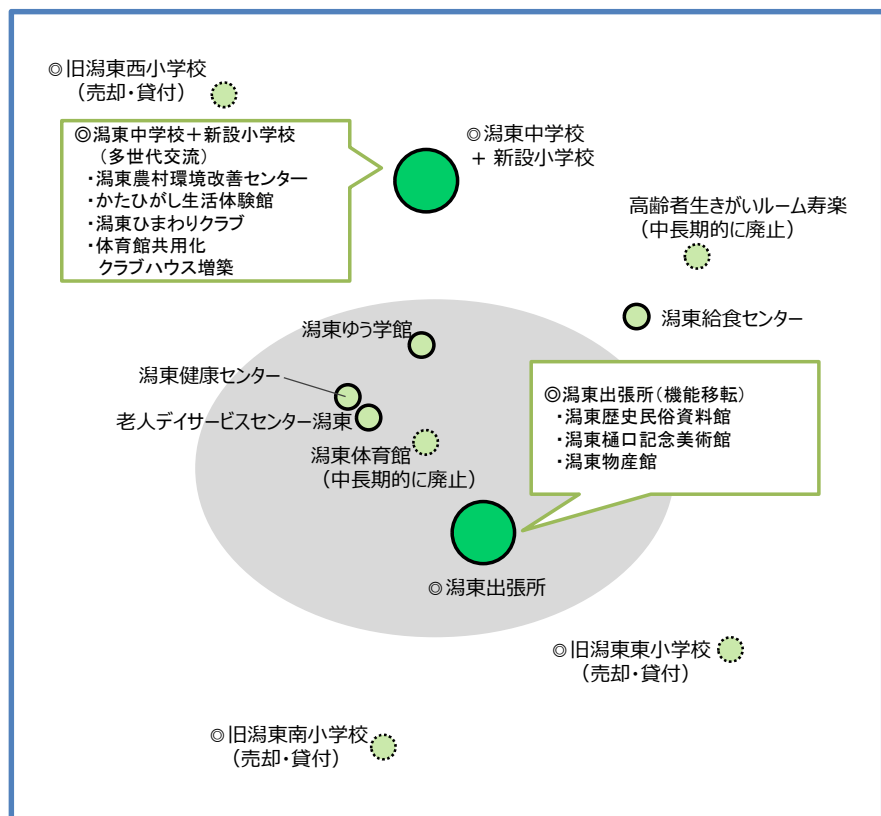


■ 課題解決のためのコンセプトと対策案（たたき台）

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

**A** 【コンセプト】  
**新設小学校にコンパクトに機能を集約し、新たな地域活性化・多世代交流、子育ての拠点をつくる案**

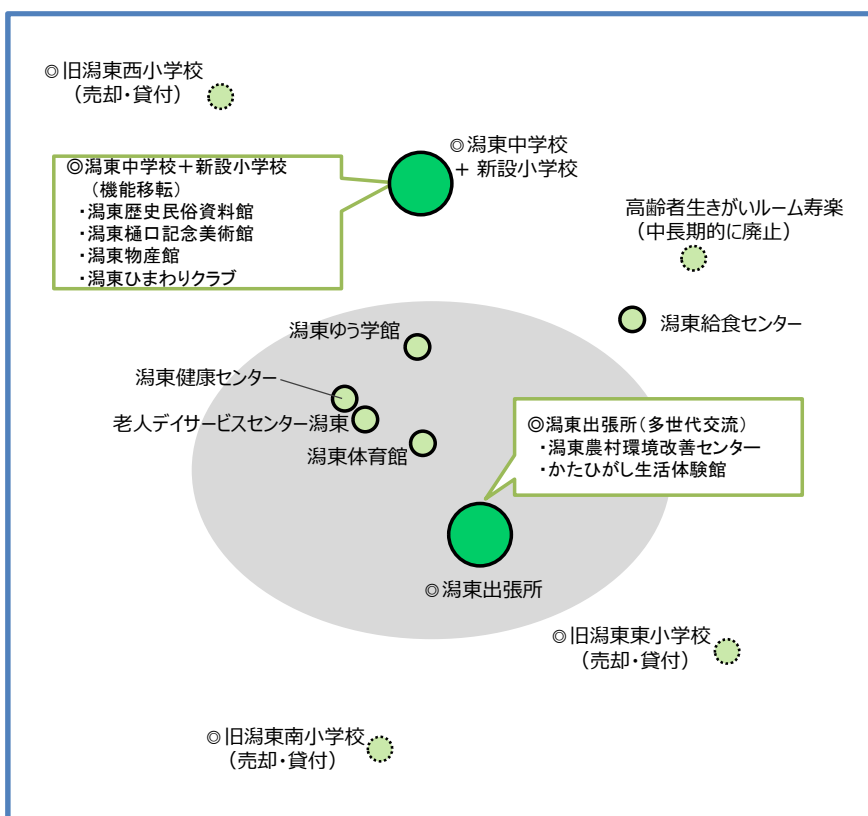
- 地域の機能を学校に集約し連携
- 地域活動交流と多世代交流を促進
- 地域と連携した教育環境を向上
- 既存施設を集約することでコスト削減



案の概要
<p>【特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな地域の中心となる小学校・中学校に、地域コミュニティにとって重要な機能（カモねぎまつり・どろんこカップの場としての活用、多世代交流）を担わせる。</li> <li>● 学校と地域活動の連携により、地域内交流、多世代交流の促進が期待できる。</li> <li>● 地域と連携した教育プログラムがしやすくなることで、教育環境の向上が期待できる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在の中心部とはやや離れており、既存施設との連携が図りにくい。</li> <li>● 新設小学校に様々な役割を持たせるため、さらに建設費がかかる。</li> <li>● 出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。</li> </ul>

**B** 【コンセプト】  
**潟東出張所に機能を集約し地域の中心拠点として有効利用し、地域活性化・多世代交流を図る案**

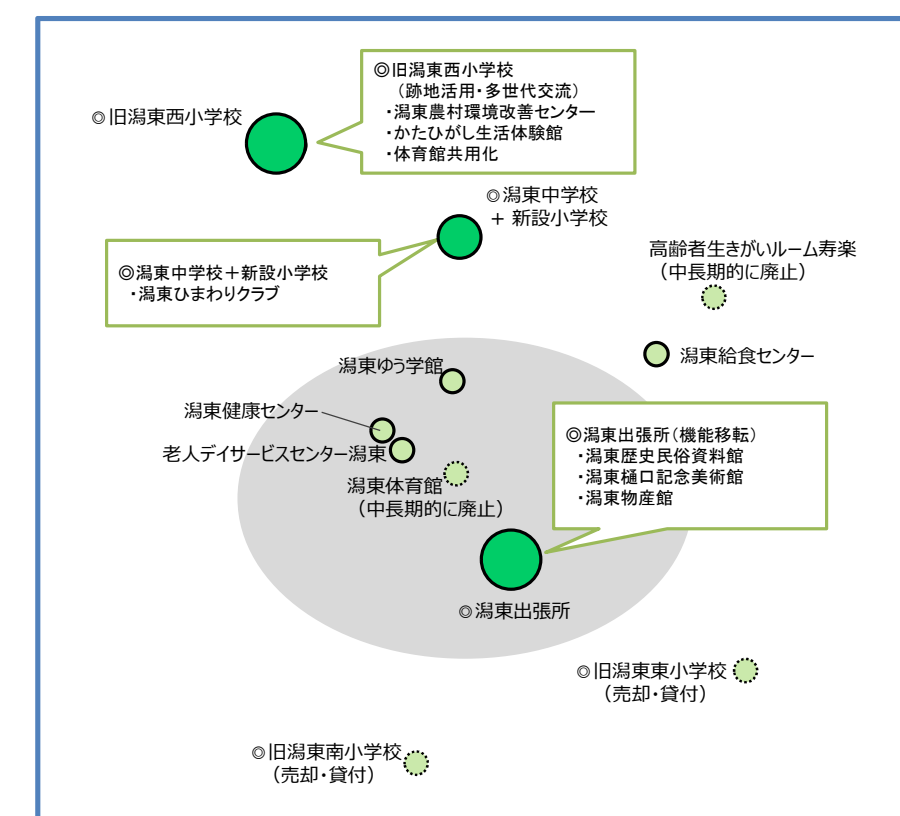
- 地域の機能を潟東出張所に集約し有効活用
- 地域活動交流と多世代交流を促進
- 各種機能のワンストップ化（アクセス向上）
- 既存施設を集約することでコスト削減



案の概要
<p>【特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の中心に、地域コミュニティにとって重要な機能（カモねぎまつり・どろんこカップの場としての活用、多世代交流）を集中させる。</li> <li>● 既存の施設を活用し、現在の中心部を活性化させることにつながる。</li> <li>● 廃止施設跡地を活用し、十分な駐車場などのスペース確保が可能に</li> <li>● 公共サービスについてワンストップサービスが実現する。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。</li> </ul>

**C** 【コンセプト】  
**西小学校への機能集約とサルビアパークを拠点として、スポーツを軸とした地域振興を図る案**

- 西小学校跡地の校舎の一部や体育館を活用し、スポーツを軸とした集客や地域活性化を促進
- 西小学校跡地は地域が管理運営

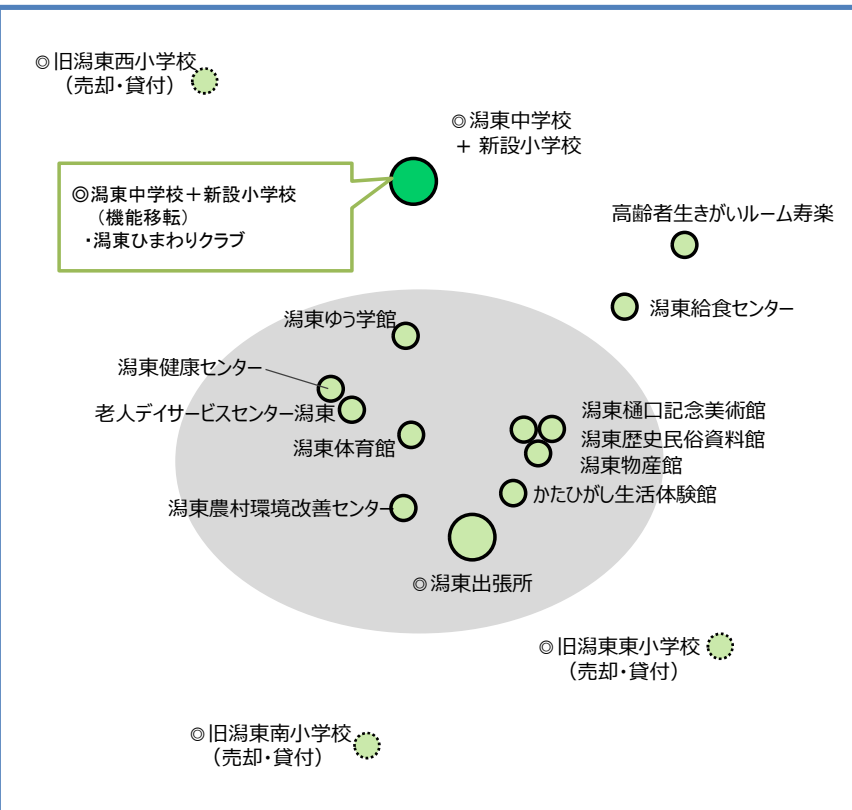


案の概要
<p>【特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 西小学校を行政が維持することにより、A,B案と比べて公共施設が分散化する。</li> <li>● 配置が分散化され、より身近に公共施設が配置される。</li> <li>● 隣接するサルビアパークとの連携により、地域の活性化が期待できる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中心性を担保する機能、にぎわいの分散化が懸念される。</li> <li>● 出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。</li> </ul>

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

**D** 【コンセプト】  
特に今は対策をせず、現状のままとする案

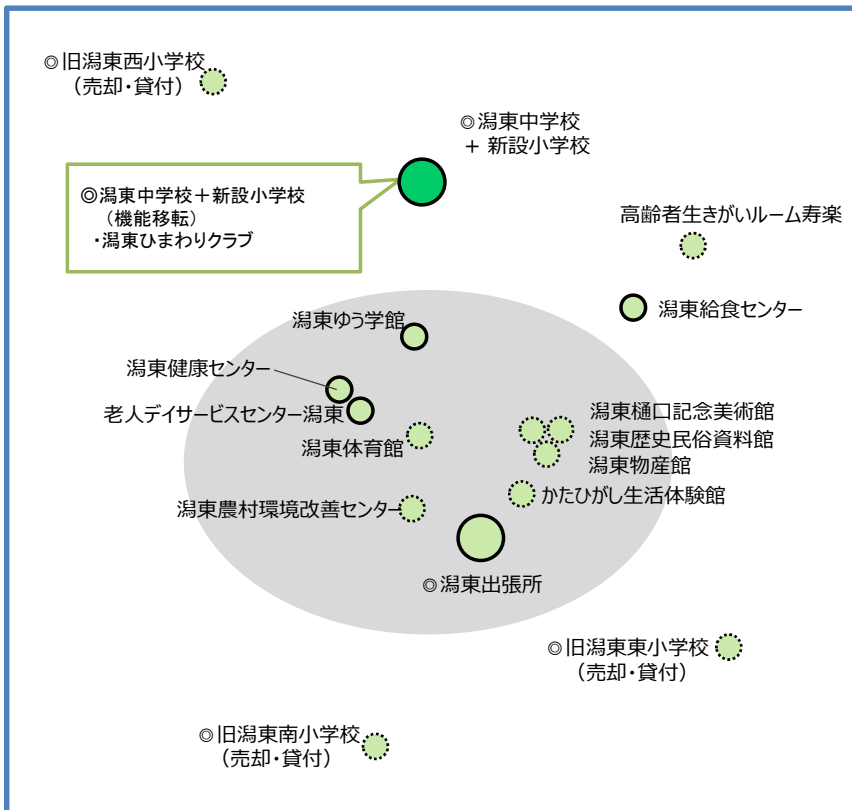
- 統合が決まっている小学校以外の現施設は存続させ、その後更新時期まで使用を続け、更新時期時点での状況にあわせ整備のあり方を検討
- 新小学校以外は新たな施設整備は行わない



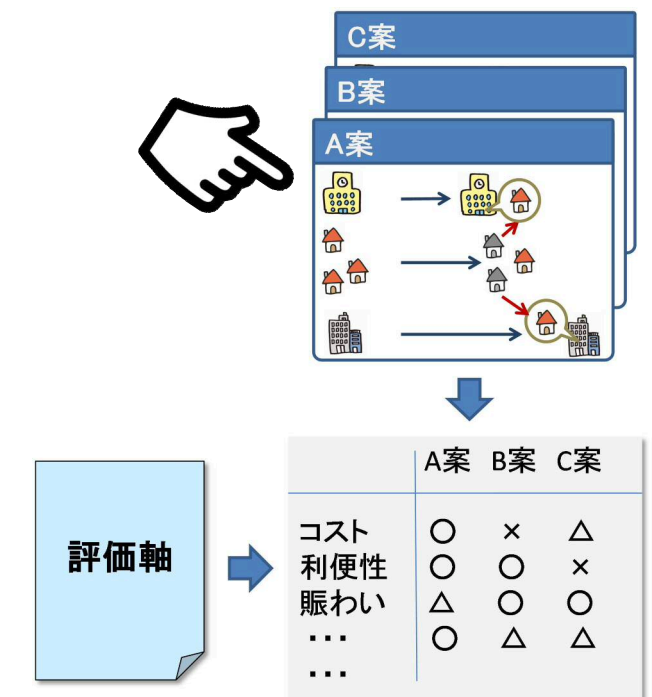
案の概要	
【特長】	・現状の配置・機能が当面の間は継続される。
【課題】	・課題解決の狙いの達成に寄与できない。 ・コストを削減できない。

**E** 【コンセプト】  
行政コストの縮減と効率化を重視した案

- 更新時期が到来した施設は、その時点で順次廃止する
- 新設小・現中学校、ゆう学館、出張所、健康センターを存続し、教育や行政サービスを提供

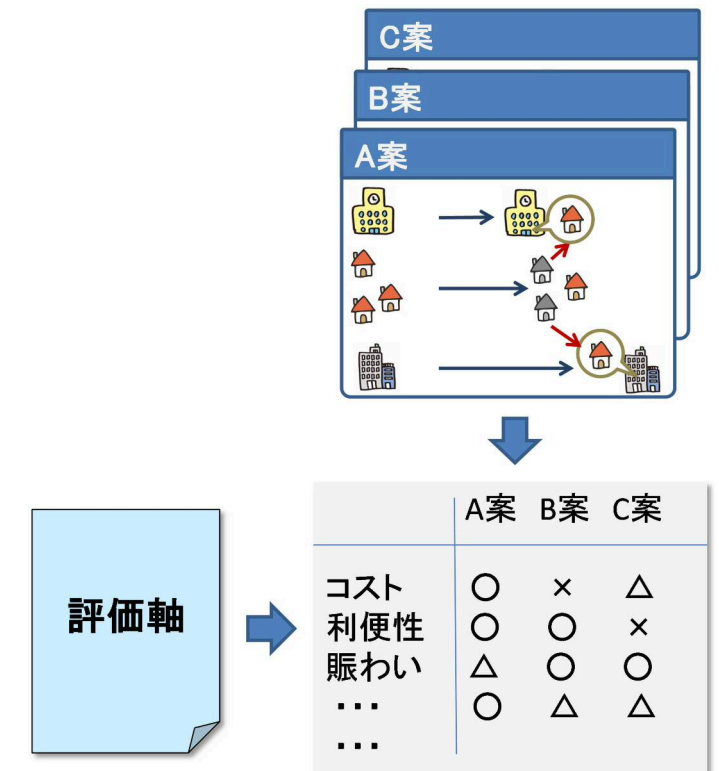


案の概要	
【特長】	・大幅なコスト削減を実現でき、市民の負担が軽減される。
【課題】	・地域コミュニティ活動や余暇活動のあり方に影響が大きい



■ 対策案を比較評価するための評価軸（たたき台）

課題解決の狙い	評価軸	【参考】評価の方法（評価指標）
① 過度な財政負担が将来世代に残らない	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 短期的な運営コストをどの程度削減できるか</li> <li>● 長期的な維持更新コストをどの程度削減できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設の運営コストの削減額</li> <li>○ 維持更新費用（改修・改築費）の削減額 （将来30年間、50年間のD案との比較）</li> </ul>
② 地域に必要な機能を維持・改善する	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者福祉・子育ての機能は維持あるいは改善されるか</li> <li>● 災害時に避難できる十分な施設やスペースが身近にあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢者福祉・子育て等のサービス内容</li> <li>○ 受けられるサービスの頻度や条件の比較</li> <li>○ 一定距離内の避難施設の充足度</li> </ul>
③ 地域のまとまりや中心性を保つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一か所に人が集まりやすくなるか</li> <li>● 地域の一体感に貢献するかの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 徒歩圏内に集まる人数や年齢等の多様性 （人が集まる施設の数量や種類）</li> <li>○ にぎわいを創出する取組みのための利用可能なスペースや施設、実施の可能性</li> </ul>
④ 地域が活性化する （魅力が増す・雇用を生む・人口を増やす）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の活動が活性化するか</li> <li>● 雇用や集客が増えるか</li> <li>● 人口が増えるか（減少を抑えられるか）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共施設や跡地を利用した新たな投資の可能性 （雇用や集客や新たな居住を生む施設など）</li> <li>○ 上記の投資に伴う公的負担（基盤整備やその維持管理のためのコスト）</li> </ul>
⑤ 地域間や世代間で負担の公平性やバランスが取れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設のサービス内容や地域に見合った利用料となっているか</li> <li>● 利用できる機能と利用者の負担のバランスがとれているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域や施設サービス内容ごとの施設利用料水準の比較</li> <li>○ 利用状況と利用料の地域バランスや世代間バランスの比較</li> </ul>
⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設の利用率が高まるか</li> <li>● 施設が十分に維持管理され安全な状態を保てるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 低未利用施設の利用率向上の可能性</li> <li>○ 施設の維持管理の状態</li> </ul>
⑦ アクセスしやすく、気軽に使える	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設へのアクセスが困難でないか</li> <li>● 利用が制限されないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主要な施設へのアクセス距離</li> <li>○ 主要な施設間の移動距離（徒歩圏内外バランス）</li> </ul>



※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

## A案

新設小学校にコンパクトに機能を集約し、新たな地域活性化・多世代交流・子育ての拠点をつくる案

### 案の概要

#### 【特長】

- 新たな地域の中心となる小学校・中学校に、地域コミュニティにとって重要な機能（カモねぎまつり・どろんこカップの場としての活用、多世代交流）を担わせる。
- 学校と地域活動の連携により、地域内交流、多世代交流の促進が期待できる。
- 地域と連携した教育プログラムがしやすくなることで、教育環境の向上が期待できる。

#### 【課題】

- 現在の中心部とはやや離れており、既存施設との連携が図りにくい。
- 新設小学校に様々な役割を持たせるため、さらに建設費がかかる。
- 出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。

### 案の概要

- 新設小学校・現中学校を新たな地域の拠点と位置付け、地域活性化・多世代交流を図る施設を整備→湯東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館、湯東体育館の機能を整備する。
- 新設小学校は、上記機能を備えたものとして整備する。同時に、中学校体育館にクラブハウス機能（集会施設とシャワーなどの設備）を整備する。
- 樋口記念美術館、歴史民俗資料館および物産館の機能は、湯東出張所2階以上のフロアに集約して整備する。複合化にあたっては、内装のリニューアル工事を実施し、想定更新時期まで供用する。
- 高齢者生きがいルーム寿楽は、湯東体育館前のテニスコートをゲートボールコートに転用した上で、集会所機能は湯東ゆう学館で代替する。

## A案

- 湯東中学校および新設小学校に移転
- 湯東出張所内に移転
- 旧湯東西小学校内に移転
- 存続
- 湯東ゆう学館で機能代替



※◎は直近10年で実施を想定する施設

課題解決の狙い	考え方
① 過度な財政負担が将来世代に残らない	・施設の複合化整備で初期投資はかさむものの、保有総量が縮減されるため長期的なコストは現状維持よりも抑えられると想定される。
② 地域に必要な機能を維持・改善する	・施設複合化という工夫で従来の機能を維持する。 ・多世代交流機能が学校に備わることにより、従来にない施設の使われ方が期待できる。
③ 地域のまとまりや中心性を保つ	・主に行政がサービスを提供する機能は既存の中心部に残り、地域の活動拠点が新たに生まれる。
④ 地域が活性化する（魅力、雇用、人口増）	・学校敷地内の立地を活かし、これまでにない交流の形が生まれ、活性化が期待できる。
⑤ 地域間や世代間で負担公平性やバランスがとれる	・地域と学校による主体的な運営により、柔軟で開かれた施設活用が期待できる。
⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	・施設を地域活動と学校カリキュラムで共用することにより施設の利用が活発になる。 ・維持する公共施設の選択と集中により適正な保全を実施できる。
⑦ アクセスしやすく、気軽に使える	・従来は地域の中心部に機能が集積していたが、学校と既存の中心部に拠点機能が分かれる。

A 案

現在の施設		将来の再配置案
潟東農村環境改善センター 		廃止 ・ 新設小学校に、潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館のコミュニティ機能を統合。
かたひがし生活体験館		
樋口記念美術館・歴史民俗資料館・物産館 		廃止 ・ 潟東出張所の2階、3階に、樋口記念美術館、歴史民俗資料館、潟東物産館の機能を統合。
潟東ゆう学館		
潟東体育館 		存続 ・ 潟東中学校の体育館にクラブハウス機能を整備した上で統合。
潟東南小学校		
潟東東小学校 		
潟東西小学校 		
潟東中学校 		
高齢者生きがいルーム寿楽 		
潟東健康センター・ティサービスセンター 		
潟東出張所 		
潟東学校給食センター 		
潟東南ひまわりクラブ 	廃止 ・ 新設小学校に併設する。	

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

## B案

潟東出張所に機能を集約し、地域の中心拠点として有効利用し、地域活性化・多世代交流を図る案

### 案の概要

#### 【特長】

- 地域の中心に、地域コミュニティにとって重要な機能（カモねぎまつり・どろんこカップの場としての活用、多世代交流）を集中させる。
- 既存の施設を活用し、現在の中心部を活性化させることにつながる。
- 廃止施設跡地を活用し、十分な駐車場などのスペース確保が可能に。
- 公共サービスについてワンストップサービスが実現する。

#### 【課題】

- 出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。

課題解決の狙い	考え方
① 過度な財政負担が将来世代に残らない	・施設の複合化整備で初期投資はかさむものの、保有総量が縮減されるため、長期的なコストは現状維持よりも抑えられると想定される。
② 地域に必要な機能を維持・改善する	・施設複合化という工夫で従来の機能を維持する。 ・文化施設の機能が学校に備わることにより、従来にない施設の使われ方が期待できる。
③ 地域のまとまりや中心性を保つ	・現在の地域中心部のリニューアル整備となり、地域の活性化を促す。
④ 地域が活性化する（魅力、雇用、人口増）	・廃止施設跡地を活用して駐車場機能を高めることが可能となり、イベント等の対応力が高まる。
⑤ 地域間や世代間で負担公平性やバランスがとれる	・出張所におけるコミュニティ機能新規整備の機会に、柔軟で開かれた利用のあり方や多世代交流活性化のための仕掛けづくりが可能となる。
⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	・維持する公共施設の選択と集中により適正な保全を実施できる
⑦ アクセスしやすく、気軽に使える	・中心部に地域の機能が現状よりもさらに集積するため、一度目的地に来てしまえば施設の使い勝手は非常に良い。 ・一方で中心に配置が偏ることから、地域によっては移動が負担となることが想定され、巡回バスなどの充実も課題。

### 案の概要

- 既存の潟東出張所の未利用スペースを活用し、地域活性化・多世代交流を図る施設を整備→潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館機能を整備する。
- 多機能化・複合化にあたっては、内装のリニューアル工事を実施し、想定更新時期まで供用する。
- 樋口記念美術館、歴史民俗資料館および物産館の機能は、新設小学校に展示スペースを整備し移転→教育施設と文化施設の融合。
- 高齢者生きがいルーム寿楽は、潟東体育館前のテニスコートをゲートボールコートに転用した上で、集会所機能は出張所2～3階のコミュニティ施設で代替する。

## B案

- 潟東中学校および新設小学校に移転
- 潟東出張所内に移転
- 旧潟東西小学校内に移転
- 存続
- 廃止



**B 案**

現在の施設		将来の再配置案
潟東農村環境改善センター 		廃止 ・ 潟東出張所の2階、3階に、潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館のコミュニティ機能を統合。
かたひがし生活体験館 		
樋口記念美術館・歴史民俗資料館・物産館 		廃止 ・ 新設小学校に、樋口記念美術館、歴史民俗資料館、潟東物産館の機能を統合。
潟東ゆう学館 		存続
潟東体育館 		存続
潟東南小学校 		・ 3小学校は新設の潟東小学校へ統合。 ・ ひまわりクラブを併設。 ・ 新設小学校に、樋口記念美術館、歴史民俗資料館、潟東物産館を担うフロアを整備し、統合。
潟東東小学校 		
潟東西小学校 		
潟東中学校 		
高齢者生きがいルーム寿楽 		
潟東健康センター・ティサービスセンター 		存続
潟東出張所 		存続 ・ 2階、3階に、潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館のコミュニティ機能を担うフロアを整備。建物は内装を含めリニューアル工事。
潟東学校給食センター 		存続
潟東南ひまわりクラブ 		廃止 ・ 新設小学校に併設する。

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

### C案

西小学校への機能集約とサルビアパークを拠点として、スポーツを軸とした地域振興を図る案

#### 案の概要

##### 【特長】

- 西小学校を行政が維持することにより、A,B案と比べて公共施設が分散化する。
- 配置が分散化され、より身近に公共施設が配置される。
- 隣接するサルビアパークとの連携により、地域の活性化が期待できる。

##### 【課題】

- 中心性を担保する機能、にぎわいの分散化が懸念される。
- 出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。

#### 案の概要

- 西小学校跡地・建物は市所有、管理運営は地域を前提とし、校舎の一部・体育館・グラウンドを活用して、誰もが気軽に利用できる、地域活性化・多世代交流を図る施設を整備→潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館、潟東体育館の機能を整備する。
- 地域の体育館機能として、旧西小学校体育館を活用する。同時に、クラブハウス機能（集会施設とシャワーなどの設備）を整備する。
- 樋口記念美術館、歴史民俗資料館および物産館の機能は、潟東出張所2階以上のフロアに集約して整備する。複合化にあたっては、内装のリニューアル工事を実施し、想定更新時期まで供用する。
- 高齢者生きがいルーム寿楽は、西小敷地の一部に整備した上で、校舎に整備されるコミュニティ施設で代替する。
- 校舎の余剰部分は、必要に応じて、更新時期に到達するまで倉庫などに使用する。

### C案

- 潟東中学校および新設小学校に移転
- 潟東出張所内に移転
- 旧潟東西小学校内に移転
- 存続
- 廃止



課題解決の狙い	考え方
① 過度な財政負担が将来世代に残らない	・学校跡地のひとつを市が管理することになるため、その他の施設による総量縮減を前提としないとコスト増となってしまう。
② 地域に必要な機能を維持・改善する	・コミュニティ機能が旧潟東西小学校に整備され、従来の中心部以外にも活動の拠点が生まれる。 ・旧潟東西小、中学校の体育館を一般開放することで、新たな利用の選択肢が生まれる。
③ 地域のまとまりや中心性を保つ	・拠点の分散となるため、位置的な中心性はA、B案よりも薄れる。
④ 地域が活性化する（魅力、雇用、人口増）	・旧潟東西小学校をサルビアパークとも連携した活用を行うことで地域の活性化に貢献する。
⑤ 地域間や世代間で負担公平性やバランスがとれる	・跡地を活用したコミュニティ機能新規整備の機会であり、柔軟で開かれた利用のあり方や多世代交流活性化のための仕掛けづくりが可能となる。
⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	・旧校舎は大きな建物であり、余剰床の行政による活用や改修対象面積の絞り込みが重要となる。
⑦ アクセスしやすく、気軽に使える	・従来は地域の中心部に機能が集積していたが、学校と既存の中心部に拠点機能が分かれる。



C案

現在の施設		将来の再配置案
潟東農村環境改善センター 		廃止 ・ 潟東西小学校に、潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館のコミュニティ機能を担うフロアを整備し、統合。
かたひがし生活体験館 		
樋口記念美術館・歴史民俗資料館・物産館 		廃止 ・ 潟東出張所に、樋口記念美術館、歴史民俗資料館、潟東物産館の機能を統合。
潟東ゆう学館 		存続
潟東体育館 		廃止 ・ 潟東西小学校の体育館を共用化、一般開放。
潟東南小学校 		・ 3小学校は新設の潟東小学校へ統合。 ・ ひまわりクラブを併設。
潟東東小学校 		
潟東西小学校 		・ 3小学校は新設の潟東小学校へ統合。 ・ 潟東西小学校に、潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館のコミュニティ機能を担うフロアを整備し、統合。体育館は一般開放。
潟東中学校 		存続 ・ 新設小学校を敷地内に新規整備。
高齢者生きがいルーム寿楽 		廃止 ・ 旧西小学校敷地の一部にゲートボールコートを整備。集会室機能は旧西小校舎に整備されるコミュニティ施設で代替。
潟東健康センター・ティサービスセンター 		存続
潟東出張所 		存続 ・ 2階、3階に、樋口記念美術館、歴史民俗資料館、潟東物産館の機能を統合。建物は内装を含めリニューアル。
潟東学校給食センター 		存続
潟東南ひまわりクラブ 		廃止 ・ 新設小学校に併設する。

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

**D 案**  
特に今は対策をせず、現状のままとする案

案の概要	
【特長】	●現状の配置・機能が当面の間は継続される。
【課題】	●課題解決の狙いの達成に寄与できない。 ●コストを削減できない。

課題解決の狙い	考え方
① 過度な財政負担が将来世代に残らない	・長期的な人口動態にあわせ、各施設の規模を縮小していくことが必要。
② 地域に必要な機能を維持・改善する	・配置が変更されないため機能は維持される。
③ 地域のまとまりや中心性を保つ	・現状と変わらない配置で、中心部が維持される。
④ 地域が活性化する(魅力、雇用、人口増)	・配置が変わらないことを前提に活性化方策を検討する必要がある。
⑤ 地域間や世代間で負担公平性やバランスがとれる	・長期的な人口動態などにあわせ、各施設の規模を縮小していくことが必要。
⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	
⑦ アクセスしやすく、気軽に使える	・現状と変わらない。















**案の概要**  
●更新時期が到来した施設は、面積の縮小など、その時点での状況にあわせて整備のあり方を検討する。

**D案**

- 渦東中学校および新設小学校に移転
- 渦東出張所内に移転
- 旧渦東西小学校内に移転
- 存続
- 廃止



D 案

現在の施設		将来の再配置案
潟東農村環境 改善センター 		存続
かたひがし 生活体験館 		存続
樋口記念美術館・ 歴史民俗資料館・ 物産館 		存続
潟東ゆう学館 		存続
潟東体育館 		存続
潟東南小学校 		・ 3小学校は新設の潟東小学校へ統合。 ・ ひまわりクラブを併設。
潟東東小学校 		
潟東西小学校 		
潟東中学校 		
高齢者生きがいル ーム寿楽 		存続
潟東健康センター・ デイサービスセンター 		存続
潟東出張所 		存続
潟東学校給食 センター 		存続
潟東南ひまわりク ラブ 		廃止 ・ 新設小学校に併設する。

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

## E案

### 行政コストの縮減と効率化を重視した案

案の概要	
【特徴（長所）】	●大幅なコスト削減を実現でき、市民の負担が軽減される。
【課題】	●地域コミュニティ活動や余暇活動のあり方に影響が大きい。

課題解決の狙い	考え方
① 過度な財政負担が将来世代に残らない	・積極的に施設を減らすことで将来の負担を残さない案である。
② 地域に必要な機能を維持・改善する	・将来にわたり残すべき機能を選択し、機能を集中させていく取組みが中長期的かつ段階的に必要である。
③ 地域のまとまりや中心性を保つ	・残す施設で、使いやすさを工夫するなど積極的な取組みが必要となる。
④ 地域が活性化する（魅力、雇用、人口増）	・既存の施設を最大限活用できる方策を積極的に考えることが必要である。
⑤ 地域間や世代間で負担公平性やバランスがとれる	・地域内での活動が多いことが想定される若年世代や高齢者世代のための施設が維持される。
⑥ 施設が有効に利用され、安全で地域のためになる	・施設規模が絞り込まれるため、維持修繕の対応がしやすくなる。
⑦ アクセスしやすく、気軽に使える	・施設集約により、利用団体間の利用調整をより密に行う必要が生じる可能性がある。

## 案の概要

- 更新時期が到来した施設は順次廃止を行っていく。
- 教育や行政サービスの提供を主な機能とする施設である新設小・現中学校、ゆう学館、出張所、健康センターを存続させ、それらの複合化・多機能化や自治集会所などの活用によりコミュニティ施設機能を維持する。



E案

現在の施設		将来の再配置案
潟東農村環境 改善センター 		更新時期時点で廃止。
かたひがし 生活体験館 		更新時期時点で廃止。
樋口記念美術館・ 歴史民俗資料館・ 物産館 		更新時期時点で廃止。
潟東ゆう学館 		存続
潟東体育館 		更新時期時点で廃止。
潟東南小学校 		・ 3小学校は新設の潟東小学校へ統合。 ・ ひまわりクラブを併設。
潟東東小学校 		
潟東西小学校 		
潟東中学校 		
高齢者生きがいル ーム寿楽 		更新時期時点で廃止。
潟東健康センター・ デイサービスセンター 		存続
潟東出張所 		存続
潟東学校給食 センター 		存続
潟東南ひまわりク ラブ 		廃止 ・ 新設小学校に併設する。

■各案の概要・特徴（長所）・課題 ※これらの案は、比較検討のためのものであり、実現を担保するものではありません。

案	概要	特長	課題
A案	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新設小学校・現中学校を新たな地域の拠点と位置付け、地域活性化・多世代交流を図る施設を整備→潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館、潟東体育館の機能を整備する。</li> <li>●新設小学校は、上記機能を備えたものとして整備する。同時に、中学校体育館にクラブハウス機能（集会施設とシャワーなどの設備）を整備する。</li> <li>●樋口記念美術館、歴史民俗資料館および物産館の機能は、潟東出張所2階以上のフロアに集約して整備する。複合化にあたっては、内装のリニューアル工事を実施し、想定更新時期まで供用する。</li> <li>●高齢者生きがいルーム寿楽は、潟東体育館前のテニスコートをゲートボールコートに転用した上で、集会所機能は潟東ゆう学館で代替する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな地域の中心となる小学校・中学校に、地域コミュニティにとって重要な機能（カモねぎまつり・どろんこカップの場としての活用、多世代交流）を担わせる。</li> <li>●学校と地域活動の連携により、地域内交流、多世代交流の促進が期待できる。</li> <li>●地域と連携した教育プログラムがしやすくなることで、教育環境の向上が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在の中心部とはやや離れており、既存施設との連携が図りにくい。</li> <li>●新設小学校に様々な役割を持たせるため、さらに建設費がかかる。</li> <li>●出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。</li> </ul>
B案	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既存の潟東出張所の未利用スペースを活用し、地域活性化・多世代交流を図る施設を整備→潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館機能を整備する。</li> <li>●多機能化・複合化にあたっては、内装のリニューアル工事を実施し、想定更新時期まで供用する。</li> <li>●樋口記念美術館、歴史民俗資料館および物産館の機能は、新設小学校に展示スペースを整備し移転する→教育施設と文化施設の融合。</li> <li>●高齢者生きがいルーム寿楽は、潟東体育館前のテニスコートをゲートボールコートに転用した上で、集会所機能は出張所2～3階のコミュニティ施設で代替する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の中心に、地域コミュニティにとって重要な機能（カモねぎまつり・どろんこカップの場としての活用、多世代交流）を集中させる。</li> <li>●既存の施設を活用し、現在の中心部を活性化させることにつながる。</li> <li>●廃止施設跡地を活用し、十分な駐車場などのスペース確保が可能に。</li> <li>●公共サービスについてワンストップサービスが実現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。</li> </ul>
C案	<ul style="list-style-type: none"> <li>●西小学校跡地・建物は市所有、管理運営は地域を前提とし、校舎の一部・体育館・グラウンドを活用して、誰もが気軽に利用できる、地域活性化・多世代交流を図る施設を整備→潟東農村環境改善センター、かたひがし生活体験館、潟東体育館の機能を整備する。</li> <li>●地域の体育館機能として、旧西小学校体育館を活用する。同時に、クラブハウス機能（集会施設とシャワーなどの設備）を整備する。</li> <li>●樋口記念美術館、歴史民俗資料館および物産館の機能は、潟東出張所2階以上のフロアに集約して整備する。複合化にあたっては、内装のリニューアル工事を実施し、想定更新時期まで供用する。</li> <li>●高齢者生きがいルーム寿楽は、西小敷地の一部に整備した上で、校舎に整備されるコミュニティ施設で代替する。</li> <li>●校舎の余剰部分は、必要に応じて、更新時期に到達するまで倉庫などに使用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●西小学校を行政が維持することにより、A,B案と比べて公共施設が分散化する。</li> <li>●配置が分散化され、より身近に公共施設が配置される。</li> <li>●隣接するサルビアパークとの連携により、地域の活性化が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中心性を担保する機能、にぎわいの分散化が懸念される。</li> <li>●出張所に関しては、比較的大きな規模のリニューアル工事が必要となる。</li> </ul>
D案	<ul style="list-style-type: none"> <li>●更新時期が到来した施設は、面積の縮小など、その時点での状況にあわせて整備のあり方を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状の配置・機能が当面の間は継続される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の狙いの達成に寄与できない。</li> <li>●コストを削減できない。</li> </ul>
E案	<ul style="list-style-type: none"> <li>●更新時期が到来した施設は順次廃止を行っていく。</li> <li>●教育や行政サービスの提供を主な機能とする施設である新設小・現中学校、ゆう学館、出張所、健康センターを存続させ、それらの複合化・多機能化や自治集会所などの活用によりコミュニティ施設機能を維持する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大幅なコスト削減を実現でき、市民の負担が軽減される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域コミュニティ活動や余暇活動のあり方に影響が大きい</li> </ul>

※各案とも、小学校跡地は、それぞれの立地特性を生かして、民間主体で活用（売却・貸付）する（C案西小学校を除く）。

※小学校以外の施設跡地は、駐車場利用などの利用を検討した上で、用途がなければ売却・貸付を行う。

※存続する施設は、更新時期が到来した時点で、状況にあわせて規模を最適化する。